

チャレンジ ～挑戦～



荒井小学校 学校だより

令和7年 5月 8日
文責：校長 第 2号 秀文



教育目標 「かしこく、やさしく、たくましく」

～ さわやかな青空の下 学びの5月に ～

ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか。新学期が始まって1ヶ月がたちました。1年生も学校生活になれ元気に勉強に運動に励んでいます。2年生以上の子どもたちも学年が一つ上がった自覚から、下級生の面倒を見ながら自分たちのやるべきことをしっかりやろうという自覚が見られる場面がたくさんありました。本当に頼もしい限りです。

さて、例年ですと、連休明けから運動会に向けての練習に学校全体が慌ただしくなるところですが、今年から運動会が秋に移行したことから、学習に力を入れています。各学年とも、毎日の授業に子どもたちが意欲を持って取り組めるように工夫しながら行っています。子どもたちの確かな学力の定着のために、これからも精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。なお、インフルエンザが例年になく流行っています。体調管理にも十分注意しながらお過ごしください。



～ようこそ1年生！困ったときは何でも聞いてね！～

4月24日(木)の2校時に「1年生を迎える会」が行われました。4年生以上の代表委員の子どもたちが企画をし、6年生が体育館の装飾や会場設営や後片付け、5年生は「花のアーチ」作成と、高学年が中心になって運営しました。特に6年生は、ゲームの説明もオーバーアクションで盛り上げ、1年生が楽しめるように、そして自分たちも楽しむように生き生きと行っていたのがとても印象的でした。その姿には「自分たちが荒井小学校の最上級生なんだ」という自覚と責任感が表れていました。そのおかげで、全校生がとても楽しい時間を過ごすことができました。6年生の皆さん、ありがとう！これからも期待しています！



～ 楽しかったね！春の遠足！～

4月25日(金)は、子どもたちが楽しみにしていた「春の遠足」でした。行き先はあづま運動公園の「トリムの森」と「木陰広場」です。この日は4年生がリーダーとなり、縦割りグループを作って、アスレチックやそれぞれの遊びで楽しいひとときを過ごしました。

この日は、太陽が雲に隠れたため、歩くときも暑すぎず子どもたちにはちょうどいい天候で、まさに遠足日和でした。お昼は愛情たっぷりのお弁当を口いっぱいにはおぼり、子どもたちの笑顔あふれる一日となりました。



~ What is 「7つの習慣」 ~

「リーダー・イン・ミー」について、昨年は結局1回だけで終わってしまいましたので、今年は「7つの習慣」すべてを紹介します。これは、子どもたちだけでなく、我々大人にも非常に有効なものですので、保護者の皆様もぜひ実践されることをお勧めします。(もちろん我々教職員も！)

<「第1の習慣」…「主体的である」とは> (昨年と同じです)

○一時停止ボタンを押して、自分の意思で行動を選ぶこと

<主体的な行動は、人間だけの特権>

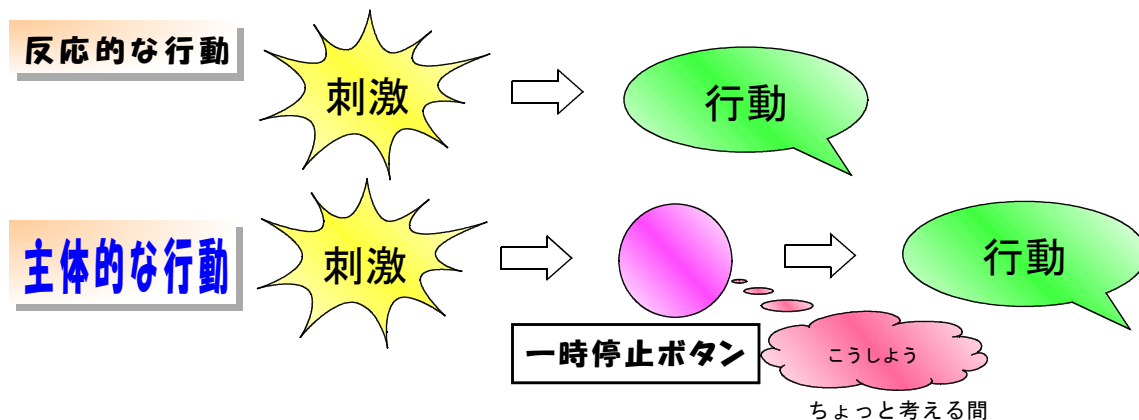
「パブロフの犬」の実験はご存じでしょうか？犬がベルの音を聞いただけで無意識のうちに唾液をたらす「行動」をとるようになるという結果を証明した実験ですね。これは「反応的な行動」です。「相手がこう言ったから、自分はこう行動した」というのもパブロフの犬と同じ、反応的な行動です。そこに自分の意思はありません。でも、**人間は自分の意思をもって行動することができます。それが「主体的な行動」です。**

下の図を見てください。

1つめに示した「反応的な行動」は、刺激と行動の間には何もなく、刺激に対して無意識のうちに行動しています

2つめの「主体的な行動」は、刺激を受けたあとに、心の中で「一時停止ボタン」を押しています。刺激と行動の間にちょっと考える間を取っているのが、1つめの「反応的な行動」と大きく違うところです。

人は、**一時停止ボタンを押している間に「どういう行動をすればよいか」と考えて、主体的に行動を選ぶことができるのです。**



○自分の力で変えられる「影響の輪」にエネルギーを注ぐこと

人が関心をもっていることを、「関心の輪」という輪の中に入っているとします。この輪の中に、自分の力で変えられる「影響の輪」という一まわり小さな輪があります。押さえておきたいことは、「影響の輪」の外にあることは、「関心はもっているけれど、自分の力では変えることができない」ということです。そこに力を注ぐのではなく**自分の力で変えられる「影響の輪」にエネルギーを注ぐことが大切です。**

そして、心がけてほしいことは「自分との約束を守る」ということです。例えば「毎朝6時に起きる」とか「笑顔であいさつする」とか、些細なことでもかまいません。どんな小さな事でもいいのでできそうなことから実行することです。そうしているうちに「自分は責任を果たす、誠実な人間だ」という自信がわいて自分を信頼できるようになっていきます。

「自分は責任を果たす人間だ」と感じることは、「主体的である」ための土台になります。そして、この「第1の習慣」は、「これから学んでいく全ての習慣の基礎」になります。

